

■枚方市総合文化芸術センター 指定管理者管理運営評価表（令和3年度実績）

公の施設の名称等			
名称	枚方市総合文化芸術センター	業務内容	①文化芸術事業に関する業務(自主事業、共催事業)②施設の貸出に関する業務(使用許可に係る業務、舞台管理業務)③施設の管理運営に関する業務(建物・設備の維持管理、外構・植栽の維持管理、備品の維持管理、清掃及び衛生管理、保安警備、駐車場・駐輪場管理、カフェ等運営、総務経理、チケット販売、トレーニング講習会の開催、その他必要な管理運営)
所在地	本館：枚方市新町2丁目1番60号 別館：枚方市新町2丁目1番5号		
設置目的	多彩な文化芸術の鑑賞、創造及び普及活動並びに文化芸術の振興を支える人材の育成を推進し、本市の文化芸術の振興を図るとともに、人々の交流の促進や都市の魅力向上に寄与する拠点とするため、枚方市総合文化芸術センター(以下「センター」という。)を設置する。		
指定管理者		公の施設の所管部署	指定管理期間
名称	アートシティひらかた共同事業体（代表団体 サントリーパブリシティサービス株式会社）	観光にぎわい部 文化生涯学習課	令和3年4月1日から令和7年3月31日 (2021年4月1日から2025年3月31日)
所在地	東京都江東区豊洲3丁目2番24号豊洲フォレシア16階		

評価項目	事業計画の内容（目標）	一次評価（指定管理者による評価）		二次評価（市による評価）	
		実施状況	評価	評価理由	評価
【施設の経営方針に関する事項】					
①施設の現状に対する考え方及び将来展望					
施設の設置目的等を踏まえ、本市の文化芸術の振興や人々の交流促進、都市の魅力向上につながる展望が示されている。	誰もが参加しなくなる文化芸術事業と利用しなくなる施設の提供を通じて、人と施設を将来に向けて育み、市民とともに文化芸術で住み続けたい・住みたくなるまちの魅力向上を目指す。	56本の文化芸術事業と施設貸出を通じて、市民の誇りとなる施設運営を実現し、まちの魅力向上に繋がった。	3	クラシック音楽事業において、初心者でも気軽に鑑賞できるプログラムを構成するなど、今まで文化芸術に関心あまりなかった市民の掘り起こしを行うなど、文化芸術の裾野を広げる事業を数多く展開した。また、目標来館者数を超えるなど、まちの魅力向上に繋がった。	4

評価項目	事業計画の内容（目標）	一次評価（指定管理者による評価）		二次評価（市による評価）	
		実施状況	評価	評価理由	評価
明確な目標設定がされ、達成に向けた方策が提案されている。	賑わいの創出をはじめとする5つの達成目標を設定。来館のきっかけとなる多様な事業展開等の具体的な方策により、目標に取り組む。	5つの目標を達成した。 1、来館者数(177,000名以上) ⇒183,550名 2、事業本数(50本以上) ⇒56本実施 3、舞台利用相談会4回以上 舞台コンサルティング2回以上 ⇒抽選会開催時の相談会や、個別の問合せに対する相談を実施。 4、窓口対応への満足度90%以上 ⇒92.1% 5、効率的な施設運営 ⇒本館・別館の2館一体運営で、効率的な施設運営を行った。	4	緊急事態宣言中のオープンであったが、目標を超える来館者数を達成し、目標事業本数を超える事業を実施できたこと、また、窓口対応への目標満足度を達成するなど、コロナ禍にありながら、確実に目標達成できたことを評価する。	4
②施設運営に関する計画					
(ア)文化芸術事業の提案					
幅広い分野で質の高い鑑賞事業が提案されており、世代を問わず多くの市民等に魅力的な内容となっている。	音楽では、大阪フィルを中心に本格的な鑑賞公演から普及事業までを開催予定。独自の市民アンケート調査結果も参考にして、あらゆる世代の市民にとって魅力的な公演ラインナップとした。	鑑賞事業を28本実施。音楽・演劇・伝統芸能など、多種多様なジャンルを幅広く実施した。	4	音楽・演劇・伝統芸能等の分野で幅広い事業展開を実施していた。また、市民が幅広い文化芸術を鑑賞できる機会の提供や、鑑賞しやすい価格設定を行っていた。	4
市独自の良質な音楽事業や舞台芸術作品の制作が提案されている。	市民とプロの協働による枚方オリジナル事業を音楽・演劇・ダンスでそれぞれ制作する。	創造発信事業を8本実施。「市民文化祭」では市民の活動発表の場を支援し、「枚方シティオペラ」では、プロと市民の協働の機会を創り、オリジナリティ溢れる事業を開催した。	4	創造発信事業として、公募で選ばれた市民(80人)をはじめとする参加者と、ワークショップ(31回)を重ね、コロナ禍の中、プロと市民で創作し、「枚方シティオペラ」を開催した点を評価する。	4
若手アーティストの育成や次世代育成事業の提案がされている。	若手アーティストの活動支援と育成事業、舞台制作を目指す学生を対象にしたインターンシップ等を提案する。	若手支援・次世代育成型事業を3本実施。地元有缘のある若手アーティストの発表の場として「アートのプラウト」シリーズや「リージョナルシアター」を実施し、育成と活動支援に力を入れた。	3	本市要求事項水準を満たしていると判断できる。	3

評価項目	事業計画の内容（目標）	一次評価（指定管理者による評価）		二次評価（市による評価）	
		実施状況	評価	評価理由	評価
文化芸術をツールとして自己表現したり、孤立しやすい立場の人たちが社会とつながるきっかけを得ることができるといったような社会包摂事業が提案されている。	来館が困難な方を招いて誰もが参加できるお祭りや、市民が気軽に参加できる多様な講座・ワークショップ事業を提案する。	社会包摂事業・普及事業を4本実施。ホール事業に加え、「京阪沿線ぶらり歴史びと」といった、あらゆる世代の市民が参加できる事業を実施し、文化芸術に触れる機会を創った。	3	本市要求事項水準を満たしていると判断できる。	3
諸室（別館施設を含む）や広場を活用して、広がりのある事業展開が提案されている。	別館の軽運動室を利用した親子バレエ体験教室や、広場ではカフェと連携した季節ごとの催事を提案する。	諸室活用事業を1本実施。ホール催事と連動した企画である「H-artsフェスタ」にて諸室を活用したワークショップを開催し、諸室の機能を活かした事業を推進した。	3	本市要求事項水準を満たしていると判断できる。	3
実施事業の性質に偏りがなく、バランスよく提案されており、収益のバランスにも配慮した事業配分がされている。	芸術性と話題性を備えた鑑賞事業で集客率、収支率を向上させる。鑑賞事業以外の事業は、指定管理料を充当し、メリハリをつける。	仕様書に基づきバランスの取れた事業を実施するとともに、鑑賞事業においてはチケット単価を廉価に設定しながら、完売や助成金獲得により収支率を向上させた。	3	本市要求事項水準を満たしていると判断できる。	3
市民総合文化祭や美術関連業務等の共催事業に対して協力する姿勢がみられる。	市の担当部署や市民団体と連携し、積極的に職員が共催事業に参画し、協働する。	共催事業を33本実施。枚方市、市民団体との共催で文化芸術の裾野を広げ、市民の文化活動を支援した。	4	市や市民団体と積極的に連携して、初の試みとなる「市民総合文化祭」や、「公募選抜美術工芸展（枚方市展）」を滞りなく実施した。	4
地域や事業者等と連携し、センターやまちの魅力を高めることができる取り組みが提案されている。	地域の事業者や公共施設と連携したイベント（マルシェ他）を企画。センターを起点に人々が回遊し、まちの魅力を高める。	新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、令和3年度は未実施。	3	新型コロナウイルス感染症の影響により事業実施は困難であったが、時勢をみて実施検討する姿勢がみられた。	3
(イ) 施設の貸出に関する業務の提案					
施設を利用して文化芸術活動を行うための専門的な相談（舞台・広報等）を受け、適切に助言するための体制が提案されている。	施設利用に関するマニュアルを作成・整備するとともに、舞台と広報の専門知識を持つ職員による利用相談会を開催する。	ホームページや利用者向けの利用案内を整備し、施設利用のルールを利用者と共有するとともに、窓口や電話での相談に対して丁寧に対応している。	3	適切な管理運営を行っている。今後はよりホスピタリティに満ちた対応を期待する。	3

評価項目	事業計画の内容（目標）	一次評価（指定管理者による評価）		二次評価（市による評価）	
		実施状況	評価	評価理由	評価
施設の利用促進に向けたより効果的で実現性の高い提案がされている。	分かりやすいツールを整え、施設見学会の定期的な開催や市内外への情報発信、利便性の向上等により、利用促進を図る。	利用者がホールの概要や設備を理解しやすいように、より詳細な情報を記載した資料等を整え、を整え、利用予定者の下見会(39回)と舞台打合せを実施した。また、施設予約抽選会実施時には舞台担当者を会場に常駐させ、利用にあたって、個別相談を実施した。	3	本市要求事項水準を満たしていると判断できる。	3
利用者に対する接遇対応向上について提案されている。	接遇研修を事業の一部に持つ代表企業により、マインドと接遇対応力を養う研修を実施する。また、サービス介助士資格の取得等によりプライオリティゲストへの対応にも力を入れる。	年間を通して施設利用担当者の研修を月1回実施するとともに、施設職員全体での接遇研修を年2回実施した。	3	適切な管理運営を行っている。	3
利用者が安全に利用できるよう施設内で発生するトラブルへの対応方法等について提案されている。	トラブルは未然防止を前提とした、発生を防ぐ取り組みを提示。また発生時の対応フローを定め、適切に対応する。	利用を考えている方や、初めての申込みの方には、早い段階で舞台担当者や打合せをする機会を設け、施設と利用者間に齟齬が無いように改善した。また、利用申込時や舞台打合せでのご案内を丁寧に行い、トラブルを防止している。	3	利用申込時や舞台打合せでのご案内を丁寧に行う姿勢がみられる。	3
セルフモニタリング及び市民・利用者ニーズを把握するしくみについて提案されている。	複数の調査手法を提案し、最適な調査方法で市民・利用者のニーズを把握する。また、確認できた利用者の声やニーズをサービス品質の向上へ反映させる仕組みを提示。経済波及効果の測定は産学協働で実施する。	利用者アンケートを通じたモニタリングを実施し改善と改良を行っている。	3	適切な管理運営を行っている。	3
(ウ) 施設運営に関する提案					
利用者の開拓や訴求力の高い広報宣伝活動など、多角的で効果的な方策を戦略的に展開する提案になっている。	多角的で効果的な方策を多数提案し、地元媒体誌等との連携も加え、利用者増につなげる。データ蓄積後は本社と連携して分析を行い、PDCA サイクル実行により戦略的な広報を実現する。	最新情報を随時ホームページに掲載している。情報誌「H-arts」の配布や広報ひらかた等の紙媒体の活用、SNS(Twitter)の情報発信等を積極的に行い、全ての市民に情報が行き渡るように努めた。	3	情報誌「H-arts」Vol.1 を広報ひらかたとともに全戸配布したことや、センターのホームページについて、知りたい情報によりアクセスしやすいよう改修を行うなど、積極的に情報発信する姿勢がみられる。	4

評価項目	事業計画の内容（目標）	一次評価（指定管理者による評価）		二次評価（市による評価）	
		実施状況	評価	評価理由	評価
鑑賞者会員制度を作り、会員増加に対する工夫が提案されている。	施設のファンづくりを目指した量的・質的拡大の方針として掲げ、会員増加に取り組む。WEB からの入会、市や構成企業が持つポイント制度との連携等を方策として掲げる。	目標を大幅に超える会員数 12,182 名(3 月末時点)を達成し、センター利用者を着実に増やした。	4	センターや各事業の魅力発信を行うための先行予約会員について、目標数を大幅に超える会員を集め、事業等の情報発信を行っていた。	4
「チケット販売業務」について、提案内容に創意工夫がみられる。	多様な販売チャンネルの設定、チケットシステムデータの分析、効果的な割引販売等の方策を提案。	チケット券売システムを導入し、窓口、電話、インターネットなど、利用者のニーズに沿った購入方法が選べるようにした。また、実施公演の内容によってはプレイガイドへの委託販売も行い、より多くの方がチケットを購入しやすい環境を整えた。	3	本市要求事項水準を満たしていると判断できる。	3
【(エ) カフェ等運営業務の提案】					
「カフェ等運営業務」が魅力的かつ持続可能な内容で、施設や地域の賑わいに寄与する提案となっている。	市内業者を活用し、魅力的なメニュー例やサービス、賑わい事業を提案。カフェに加えてレセプションやケータリング等の需要も取り込み、多面的な飲食サービスの提供により、カフェ経営の安定化と継続を提示。	施設との一体感を意識してメニューを作成した。また、公演時のケータリング等も積極的に受け、カフェの売上安定に努めた。	3	新型コロナウイルス感染症の影響により当初計画されていた賑わいに寄与する事業実施は困難であったが、レセプション等でのケータリング対応など、幅広いニーズに対応するフードサービスが行っていたことを評価する。	3
【施設の管理に関する事項】					
① 安全性の確保					
施設等の長寿命化を念頭に、物理的・社会的劣化等を踏まえた取り扱い方針並びに利用者の安全確保、事故防止策等について具体的に提案されている。	利用者の安全確保と事故防止の徹底、法令遵守等正しく最適な施設管理、IT を導入した LCC(ライフサイクルコスト)の最適化を基本的な考え方とし、施設管理・舞台管理ともに安全性の確保について具体的に提案。	仕様書に基づき、適切な安全管理を行っている。	3	本市要求事項水準を満たしていると判断できる。	3

評価項目	事業計画の内容（目標）	一次評価（指定管理者による評価）		二次評価（市による評価）	
		実施状況	評価	評価理由	評価
建築設備全般に係る点検・保守を適切に実施し、機能保全・利用者への安全、快適な環境が提案されている。	点検・保守の計画的な実施、利用者への配慮とともに、実施状況の評価等を行うモニタリングシステムを提示。	他施設の施設維持管理で蓄積したデータを活用し、効果的な施設管理業務を行っている。	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
来館者が安全に過ごせるような警備体制が提案され、大規模イベント時の対応や、駐車場の警備について優れた提案がある。	館内の安全確保のための警備体制を提示。大規模イベント時は、事前の計画立案によるイベント毎の警備体制で対応、駐車場は周辺道路の混雑も考慮した誘導を提示。	イベント等で館内の混雑が想定される場合は各社で協力し、来館者が安全に過ごせるように、警備配置を行っている。	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
② 職員の適正配置					
事業を遂行するために各業務に専門性がある人材が配置されている。	業務と役職ごとに専門性と経験のある人材を配置。JV3社の本社からも支援を加え、効率的・効果的に事業を遂行する。	業務と役職ごとに専門性と経験のある人材を配置するとともに、施設の新規立ち上げのために本社から適正な支援人員を加えた。また、10月からの貸館開始では、多様な市民ニーズに丁寧に対応するため、手厚い体制を整えた。	4	年間 100 本の事業を実施するにあたり、企画制作グループの人材を手厚くしており、良好な管理運営を行っている。	4
給与等の雇用条件が適正で、研修制度など育成の視点が盛り込まれている。	雇用市場を踏まえた適正な待遇、労働関係法令を遵守した雇用を行う。職員の満足をベースとする施設価値向上の好循環を目指すとともに、センターでの勤務を通じて働きがい・生きがいにつながるよう、継続的に研修を実施する。	適正な条件で雇用するとともに、各社ともに職員の育成計画を踏まえた研修を実施しており、職員の成長に繋がっている。	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
各業務を遂行するために適正な人数が、効率よく配置されている。	仕様書の水準を満たしつつ、本館及び別館の一体管理を前提とした効率的な配置を提案。	本館と別館の同時運営となった 9 月は、効率的な運用により、トラブルなく運営できた。また、2022 年 4 月から本格的に稼働する本館・別館の一体管理に向けても、効率的に運用できる体制を整えた。	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
③ 環境への配慮					

評価項目	事業計画の内容（目標）	一次評価（指定管理者による評価）		二次評価（市による評価）	
		実施状況	評価	評価理由	評価
環境に配慮した管理運営を目指し、ごみの削減、省エネルギー等具体的に提案されている。	4R と省エネ・省資源を推進する運営を展開する。傘の貸出サービスによる使い捨て傘のごみの削減の提案、電気使用量の削減目標の設定等。カフェにおいても具体的な取組みを提示。	4R の徹底によりごみの減量、資源の再利用を意識した運営を行っている。各事務所内の節電や、空調機器の適正な温度設定など、環境に配慮している。	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
④ 備品管理					
備品管理に当たり、管理簿の整備及び責任所在について提案されている。	備品管理規定を定めて適切に備品管理を行う。物品の責任所在を明らかにし、備品管理簿の整備により基本情報の一元管理を行う。	物品管理簿を用い、備品を適切に管理している。	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
⑤ 雇用及び人権					
障害者法定雇用率が達成されている（申請段階で未達成の場合は、本施設における雇用をはじめ、雇用率が達成できるよう提案されている）。	JV 全社が法定雇用率を達成している。また障害者雇用を維持継続するための取組みを提示。	多様な人材が活躍できるように、職員の事情を考慮した環境を整えている。 ・サントリーパブリシティサービス(株) 2.60% ・京阪ビルテクノサービス(株) 2.25% ・大阪共立(株) 2.80% ※2022年3月時点	2	令和3年3月1日から、国の障害者法定雇用率は2.3%となっているため、一部未達成が生じている。	2
人権研修及び男女雇用機会均等法に基づくセクシャル・ハラスメント防止対策について、提案されている。	セクシャル・ハラスメントを含むハラスメントの研修を実施して発生を防止。また、代表企業内にはハラスメントに関する相談窓口が設置されている。相談窓口の存在や相談方法を周知することも防止対策となっている。	コンプライアンス研修やハラスメントに関する研修を実施し、適切な職場環境作りに取り組んでいる。	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
人材確保の方針として、地元在住者採用の取組みについて提案している。	地元のハローワーク等とも連携し、公正な採用選考の仕組みのもとで、地元人材を確保していくことを提示。	枚方市内在住者を積極的に採用している。 ※全職員中、枚方市在住者 44%	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
【情報公開及び個人情報保護の措置に関する事項】					

評価項目	事業計画の内容（目標）	一次評価（指定管理者による評価）		二次評価（市による評価）	
		実施状況	評価	評価理由	評価
枚方市情報公開条例の目的等を踏まえ、管理運営事業で保有する情報の公開に関する対応が明確に示されている。	枚方市情報公開条例に基づき、適切に対応を行うことを明示。JV が保有する情報は、枚方市の対応を軸に取扱い方法を整備する。	情報開示請求があった場合には、適切に対応している。	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
枚方市個人情報保護条例の目的等を踏まえ、個人情報の保護に関する必要な措置について明確に示されている。	枚方市個人情報保護条例や個人情報保護法に基づき、個人情報の保護に必要な4つの措置を明示。また、代表企業本部は ISO27001 (ISMS) を取得しており、その情報マネジメントの手法に準拠し、保護に取り組む。	個人情報保護法と枚方市個人情報保護条例を遵守し適切に管理している。個人情報に関する研修を実施するとともに、個人情報の鍵付きキャビネットでの保管といった物理的な安全措置を施し、適切に管理をしている。	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
【緊急時における対策に関する事項】					
緊急時・防犯・防災対策の危機管理マニュアル作成等が提案されている。	危機管理マニュアルの作成と整備を提示。情勢に合わせた更新・最適化とマニュアルを用いた研修を提示。	緊急時に適切な対応が取れるように、危機管理マニュアルを整備している。研修等を利用し、全職員間で危機管理マニュアルを共有できている。	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
緊急事態発生時又は発生が予測される場合における常時連絡可能な体制・方策が提案されている。	緊急事態発生時の連絡体制と、24時間連絡可能な体制を提示。市内に事業所がある構成企業が迅速な対応を行う。	共同事業体間で緊急時の体制について共有し、有事の際に対応できるように体制を整えている。また、24時間 365日連絡可能な窓口を設置し、万が一責任者が不在であっても対応できる体制を整えている。	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
構成員間（本支社間含む）、市との間におけるリスク分担に対する考え方が明確に示され、かつ考え方に対応した分担内容となっている。	JV 間、枚方市との間においては、協定書等に明示することで、リスクに対する責任の所在を共有。構成員間（本社間）においても役割分担を定めた上で、緊急時は連絡・相談しながら対応を行う。	協定書にて業務分担を行っている。	3	本市要求事項水準を満たしている と判断できる。	3
【その他】					

評価項目	事業計画の内容（目標）	一次評価（指定管理者による評価）		二次評価（市による評価）			
		実施状況	評価	評価理由	評価		
高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、大阪府、本市条例等に基づき、高齢者や障害者等が円滑に利用できるよう、具体的な対応策について提案されている。	高齢者・障害者へ適切な配慮ができる職員を育成する。サービス介助士基礎講習の受講、更にはサービス介助士資格取得の推進等を行う。また、利用者が館内のバリアフリー情報を入手しやすいようにホームページ等に掲載する。	障害がある方やご高齢の方へ配慮したサービスや対応を実施している。 車椅子でお越しの方へはスタッフ自らお声がけするなど、積極的なご案内を行っている。ご高齢のお客様に対する丁寧なご案内はもちろんのこと、施設備品である難聴者システムの貸出等も行い、ハードとソフトの両面で利用者を支えている。	3	適切な管理運営を行っている。	3		
市が実施する事業に対する協力やコミュニケーションを活発にする連絡体制等、市と積極的に連携・協力する姿勢が見受けられる。	市とは定例会を企画し、各種調整事項の協議や早期課題解決の場とする。その他にも協力事業の協議・大規模修繕に関する協議など、内容に応じたミーティングを指定管理者が率先して設定し、円滑なコミュニケーションと連携を図る。	枚方市と月例の定例会を実施し、協議事項の確認や課題の解決の場として適切に運営している。	3	適切な管理運営を行っている。	3		
		一次評価（指定管理者による評価）	平均点	3.1	二次評価（市による評価）	平均点	3.2

<p>一次評価者（指定管理者）所見</p>	<p>令和3年度の来館者数は183,550人で目標を達成。文化芸術事業は開館後56本実施し、事業参加者数は49,844人となった。センターの開館により期待される市の文化芸術の振興や人々の交流促進に繋がる活動を展開し、総じて計画どおりの適正な管理運営を行ったと自己評価する。</p> <p>文化芸術事業はクラシック、演劇、伝統芸能等の多種多様な鑑賞公演に加え、「第1回枚方市展」や「枚方シティオペラ」といった市民参加型事業にも注力し、枚方市民が文化芸術に触れる機会を数多く提供した。枚方市として初めて開催した公募選抜美術工芸展である「第1回枚方市展」においては、10代から90代までの幅広い年齢層から406点の応募作品を集め、入選作品201点を館内(ギャラリー、イベントホール、創作活動室)に展示した。「枚方シティオペラ」については、一般公募で合唱団員を募り、奥村啓吾氏の演出のもと「カルメン」ハイライトコンサートを成功させた。文化芸術事業のチケット先行予約会員数は年間目標を大きく上回り(12,182名:3月末時点)、会員へのメールマガジンによる情報提供をはじめホームページや広報誌、Twitter等のSNSを効果的に活用した広報を展開し、多数の公演のチケット完売に繋がった。</p> <p>本館の一般貸館は10月1日から開始となり、大ホールや小ホールをはじめとする諸室、ギャラリーの貸出運営を滞りなく実施した。すべての利用者にとって初めて利用する施設となることから、下見会を通じて施設を見ていただく機会を設けたり、入念な舞台打合せを早めに行ったりすることで、利用者と施設運営側の双方にとって安全・快適に貸出ができるように心がけた。施設の運用については、開館初年度だからこそ頻出する利用方法に対するご意見・ご指摘にも真摯に向きあい、納得を得られる説明や日々改善を重ねて安定稼働に導いた。別館のリニューアル工事に伴う10月1日～3月31日の休館期間は、本館運営と併行しながら、市担当課との備品の調整、運用に関するルール策定等、4月1日からのリニューアルオープンに向けた準備を行った。令和3年度の総括としては、計画通りの業務遂行ができたと考える。</p>
<p>総合評価</p>	<p>総合文化芸術センターの開館初年度として、令和3年4月からセンター別館がオープン、8月30日からはセンター本館がオープン、10月にはセンター本館の貸館が開始され、新型コロナウイルス感染症の影響により施設の利用制限等があったものの、当初から目標に掲げていたセンターの来館者数や、センターにて実施された事業本数、事業参加者数が目標値を達成されており、適切な管理運営が行えていると評価できる。</p> <p>鑑賞事業については市民の幅広い鑑賞機会の提供や、鑑賞しやすい価格設定を行ったこと、創造発信事業については公募で選ばれた市民をはじめとする参加者たちと「枚方シティオペラ」を創り上げたこと、共催事業については初の試みとなる「市民総合文化祭」、「枚方の美術家展」、「公募選抜美術工芸展(枚方市展)」を開催できたことなど、コロナ禍の中でも感染症対策に留意し、市駅周辺の賑わい創りに貢献した。</p> <p>施設運営に関する点においては、施設利用を促すため、ホームページの内容を充実させたことや、先行予約会員の利用者数を大幅に伸ばしたことなど、センターの魅力発信を行っている点を評価する。</p> <p>施設の貸出に関する業務については、一部の利用者の意向に沿った舞台打ち合わせが出来ていなかったことに対し、徐々に改善されつつある。さらに、利用者に満足していただける催事が常態化するよう、利用者目線で業務を遂行していただきたい。また、舞台に関する説明会や相談会については、施設利用者のみに対するものに留まっているため、指定管理期間2年目となる令和4年度においては、市民をはじめ、多くの利用者が「使用したくなる」施設を目指し、稼働率の向上や利用者満足度の向上に繋げていただきたい。また、未達成である障害者法定雇用率については、可能な限り早期の達成のため、雇用促進の取り組みを進めていただきたい。</p>
<p>事業計画に即した適切な管理運営を行っている。</p>	<p>二次評価者（施設所管部署）所見</p>

1. 利用状況

令和3年度		
開館日		
大・小・イベントホール	196	日
美術ギャラリー	175	日
上記以外の本館諸室	171	日
別館諸室	109	日
施設利用者数・施設稼働率		
大・小・イベントホール	92,890	人
	75.8	%
美術ギャラリー	39,180	人
	88.3	%
上記以外の本館諸室	14,538	人
	56.3	%
別館諸室	22,728	人
	31.7	%
事業開催回数	56	回
事業参加者数	49,844	人

2. 収支状況

歳入 単位：円

項目	令和3年度
指定管理料	502,035,407
助成金・協賛金・補助金	18,427,369
カフェ運営業務	14,588,098
その他	80,403,823
小計 a	615,454,697

別掲として市への収入として 単位：円

ホール・会議室使用料	67,326,460
設備使用料	10,195,400
駐車場使用料	10,959,300

歳出 単位：円

項目	令和3年度
人件費	210,900,257
施設維持管理費	145,852,428
光熱水費	42,918,002
通信運搬費	1,041,951
事業費	150,781,182
事務費	23,766,195
広告宣伝費	12,279,128
修繕費	9,920,405
カフェ等運営業務費	15,454,984
その他	581,602
小計 b	613,496,134

単位：円

合計 a-b	1,958,563
--------	-----------